届け 世界の果てまでも

令和４年５月６日　Ｎｏ．７　文責　校長　飯久保一男

今年のめあて

前々号で「今年のめあて」のその３「**あたり前にできると『かっこいい』**」について書きましたので，今号では，その１・その２についても書かせていただきます。

その１は「**おたがいを思いやると『かっこいい』**」です。

これは，本校の学校教育目標

「自分を大切にし，他者を大切にする」子どもの育成

を言い換えている言葉です。クラスや学年をつくっていくにあたり，ひいては，よりよい学校をつくるために，さらには，人格の形成においても，人のことを思いやることは大切な課題となります。

一人一人に居場所のある学校，いじめのない学校となるための一番のもととなることですし，お互いをよく知って，お互いを尊重する，人間としての基本となることです。

コロナ禍においての，手洗いやマスクの着用なども，自分を大切にすることですし，また，他者を大切にすることです。みんなで使うものに触れる前に手を洗うことは，自分がウイルスを持っていないと思っていても，他者を守るための行動となります。また，みんなで使ったものに触れたあと手を洗うことは自分を守ることになります。手を洗うことが自分を大切にし，他者を大切にすることにつながると理解することで，手の洗い方が変わってきます。マスクをすることは，どちらかというと，自分を守ることよりも，他者を守る意味合いの方が強いでしょうか。

南アルプス市の２２の小中学校は，「『小笠原流礼法』を活かした心の教育推進事業」に取り組んでいます。小笠原流礼法の授業では，その所作にどんな意味があるのかを師範が指導してくれています。一つ一つの所作を学習することで，他者を敬うことを学んでいきます。

今年は特に「**あやめっ子タイムで，友だちをよく知ろう**」というめあてを掲げました。櫛形中学校区小中一貫教育の特徴ある取り組みの一つには「Slimple プログラム」の取り組みがあります。櫛形地区の４小学校では「あやめっ子タイム」中学校では「くっしータイム」と称して取り組んでいます。この「あやめっ子タイム」によってつくられた人間関係が，授業や活動に生かされることで，めあてに近づくことができると考えて取り組んでいます。　…昨年度校長通信 No.６５を参照ください。ホームページから見ることができます。

多くの小学校の学校教育目標は，「自ら学ぶ」「豊かな心」「たくましく」などの言葉が使われているものが多くあります。本校の学校教育目標は「自分を大切にし，他者を大切にする」と，他校にはない，他校とは違う言葉で表現されています。子どもたちを指導・支援する上で，子どもたちと共有し，意識できる目標です。そして，子どもたち自身が学習や活動を振り返ることのできる目標にもなっています。

その２は「**お互いを高め合うと『かっこいい』**」です。大きく２つのめあてを掲げました。

○ やる気をもって授業に参加して，学び合おう

１つ目は授業についてのめあてです。「学び合い」※1は，櫛形中学校区小中一貫教育のめざす柱やキーワードにもなっています。４月１日の職員会議に，校長は全教職員に学校経営方針を示します。今年度の学校経営方針の柱の一つに，**「教師は授業で勝負をするという気迫をもった教師力」**という言葉をあげました。学校は，学習をする場です。一日のうちで一番多くの時間をかけて行う授業が大切であることは，誰よりも教職員が自覚しています。教師は子どもたちを評価する立場にありますが，逆に，教師の評価は授業でされるものです。校長や教頭も教職員の授業を見る中で指導をしていきますが，授業への取り組みは，校内研究会※2において，ベテラン教師も若手教師も考えを出し合い，よりよい授業をめざし，授業を進化させていきます。

子どもたちには，授業に意欲（=やる気）をもって臨んでほしいと思っています。受け身の授業ではなく，主体的に学習し，友だちから刺激を受けたり，友だちに刺激を与えたりする授業を展開してほしいと思います。自分の考えをもって授業をし，自分の考えと違う友だちを尊重し，お互いの考えを交流する中で，さらにいい考えが生まれるような「学び合い」のある授業をめざしてほしいと思っています。

※１　「学び合い」については，昨年度の校長通信 No.６６を参照してください。ホームページから見ることができます。
※２　校内研究会は日本の学校の特徴ある優れた文化です。近いうちにまたこの紙面で書かせてもらいます。

○ 楽しい学校・学年・学級をつくろう

２つ目は，楽しいとはどういうことかを理解して，クラスや学年をつくってほしいという願いを込めています。子どもたちに理解してほしい楽しさとは，

○わかる楽しさ　○できる楽しさ　○知る楽しさ
○つくる楽しさ　○歌う楽しさ　○かく楽しさ
○協力する楽しさ　○がんばる楽しさ　○やり遂げる楽しさ
○人が喜ぶ楽しさ

などです。難しい問題に挑戦してそれが解けたという楽しさ，努力したり練習したりしてできるようになった楽しさなど，簡単に習得・獲得できるものではないものでも，成し遂げられた喜びを子どもたちにも理解してほしいと思います。発達段階によってそのレベルは違いますが，２年生が１年生に喜んでほしくて会を企画したり，遊びを考えたりしている姿が楽しそうなのを見ると，６年生が下級生を喜ばせようとたてわり活動をがんばる姿に重なります。

そして，やる気のある言葉として「ぼくがやります」「私がやります」と具体的な言葉をあげました。授業でも様々な活動でも，こういう姿勢をもって取り組むことが楽しいと感じてほしいと思います。またこんな言葉を言ってもらえたら，教職員はうれしくなって，さらに子どもたちのためにがんばれます。

間に別の内容の通信を挟みましたが，２回に渡って，子どもたちへの今年のめあてを紹介させていただきました。子どもたちに望んだり願ったりする分，もちろん教職員も研修を重ねます。子どもたちのがんばる姿を見て，教職員ががんばり，それを受けてまた子どもたちががんばる，そこでまた教職員が…，と相乗効果が生まれますと，学校はどんどん楽しく，いい学校になっていきます。

４月にはたくさんのホームページへのアクセス（来訪）をありがとうございました。
開始以来の各月の来訪者を調べると歴代２位の来訪者のあった月になりました。
ちなみに歴代１位は昨年の６月，コロナ関連のアクセス集中のときでした。
コロナがなければ，歴代１位となる数の来訪者のあった月になります。
本紙面もホームページも充実させるべく，気合が入りました。